

# ほのぼのフォーラム

(発行) 東京都リハビリテーション病院  
医療福祉連携室  
〒131-0034 東京都墨田区堤通 2-14-1  
TEL: 03-3616-8600  
FAX: 03-3616-8699  
<http://www.tokyo-reha.jp>

第 15 号

H20 年 12 月 11 日



東京都リハビリテーション病院  
作業療法室 (上)  
理学療法室 (右)

## ご挨拶

東京都リハビリテーション病院 看護科長 鍋倉あつ子



東京都リハビリテーションに赴任して、早半年が過ぎようとしています。赴任直後に参加させて頂いた、「入院審査会」と「5階病棟の中間評価」は、特に感銘深いものでした。入院患者を担当する医師、看護師、訓練士、MSWが一同に会して、患者の病態、訓練内容、病棟でのADL等について意見を交換する、当院の「中間評価」は、多くの看護師が求めるチーム医療の理想の姿を見た想いがしました。

私は知的障害者の息子を持っております。独りではまともに社会生活の出来ない彼を思うと、卑屈な想いに打ちひしがれ、つつい笑顔が途切れ勝ちになってしまうのです。これではいけない、何とかしなければと、足掻き続けた辛い日々でした。

そんな時、あの方々に出会いました。がん患者さんの屈託の無い笑顔、車椅子の患者さんの明るい挨拶、そのひたむきな生き方に、私は呆気に取られました。殊更に屈め続けていた背中を、思い切り、えい、と、押しもらったような、心地よい感触がいつまでも残りました。もっと、シャン、としなさい！ それからは、ことある毎に何度も自分にそう言い聞かせたものです。あの方々からは、とても大切なものを頂きました。これ

を糧に、今後も精一杯頑張りたいと考えます。

リハビリテーション看護とは何か、看護の成果をどこで、どのようにみたらいいのか、これが目下の課題です。訓練の成果は、患者の行動変容として確認することは出来ますが、看護の成果となると非常に難しいと考えます。看護師一人一人は日々の看護の中で、患者を見つめ、アセスメントしながらケアをしています。しかしその思考過程は、個人の中で収められることが多く、全員が共有するのは困難です。

佐藤紀子氏は「看護師たちの臨床の知」のなかでマイケル・ポラニーの次のような言葉を紹介しています。「経験を積んだ看護師が知っていることは個人的な知識として非常に豊富な内容を包含しており、その一部が言語として語られることが可能であること、またその一部が記述可能である」。

リハビリテーション看護についての質問に、ある看護師が、患者の何気ない行動から可能性を見出し訓練につなげ、患者の行動変容があったと話していました。このような経験を持つ看護師は、少なくないと思います。看護師各々が経験のなかで学んだ「臨床の知」を、お互いに語り合える場を是非とも作っていきたいと考えます。

### 東京都リハビリテーション病院運営理念

身体に障害を持たれた方々が生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療の推進をはかる。



# 平成 20 年度地域ネットワーク支援事業に関するご報告

## 1. 墨田区在宅リハビリテーション支援事業について

### 在宅リハサポート医登録証の発行と授与について

在宅リハビリテーション支援事業（以下「支援事業」という）は、墨田区が東京都医師会（東京都リハビリテーション病院）へ事業委託し、すみだ医師会の協力の下に実施されている事業です。『在宅リハサポート医』は東京都医師会（当院）が主催する研修会に参加いただき、申請された医師が認定登録されます。在宅リハサポート医の役割は、回復期病院や老健施設等でリハビリテーションを終えて退院した利用者を、診療所やクリニックにて定期的な評価や激励を行うことです。

（利用者評価の基準は、退院時等に課題として提案された自宅用訓練プログラムの成果や達成度、ADL 等を評価いただいております）

現在登録医は、すみだ医師会会員の 37 名の先生にご協力いただいております。利用者の近隣でフォローできる体制を構築できるに至っております。この度、東京都医師会長、当院院長連名による「在宅リハサポート医登録証」が発行されました。順次、在宅リハサポ

ート医の各先生にも認定書が授与されておりますので、皆様がお目にする事もあるかと思っております。事業に関する内容は、ホームページにも掲載されております。その他、ご不明な点は当院事務局\*まで御連絡下さい。



当院の林院長より、湯澤先生へ在宅リハサポート医登録証が授与されました

※) 墨田区在宅リハビリテーション支援事業 事務局 電話:03-3616-8399

事業の詳細は当院ホームページをご覧ください

## 2. 高次脳機能障害者支援地域ネットワーク事業について

### 高次脳機能障害連携委員会を開設いたしました

当院では平成 20 年 3 月に開催された「第 1 回 区東部高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会」(支援センター業務)を受けて、院内の有志のメンバーが集まり「さくら COZY 倶楽部」を立ち上げ活動をしてまいりました。「さくら COZY 倶楽部」では、講習会等の広報活動を中心に、院外のネットワーク作りにも力をいれてまいりました。このたび、今年 11 月に任意団体であった、さくら COZY 倶楽部を発展的に運営する形で、「高次脳機能障害連携委員会」が院内の正式な委員会として発足致しました。今月号では委員会立上げの経緯と活動内容をご報告致します。

当院には地域リハビリテーション支援センター(以下、支援センター)として、高次脳機能障害を含むリハビリテーションについての研究、研修を行い地域の皆様に貢献する役割があるのはご存知でしょうか。その役割の中で、副院長を中心としてリハビリテーション外来にて、

疾患の診断・評価や社会的支援を行っております。また、高次脳機能障害専門特殊外来(月 2 回)も開設したことで、高次脳機能障害者を支援する専門病院として他の医療機関や家族会、行政などに注目されるようになりました。しかし、院内では、核となって高次脳機能障害の問題を話し合う場や窓口が明確になっておらず、問題の察知や外部への発信が十分ではない状況でした。

そこで、高次脳機能障害連携委員会では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、医療相談員が各部門からそれぞれの視点で協議していくことで、支援センターとしての役割、並びに効果的な患者支援を検討いたします。今後、当委員会では、「行政との事業の検討」、「家族への直接的支援」、「院内外の会議、研修会の出席」などを主な活動事項として運営されます。



## 国際看護交流

## 看護科長補佐 蟻田富士子

財団法人国際看護交流会の依頼を受け看護指導者育成コース研修を11月6日に行った。今回の研修生は看護管理者が多数参加しており、例年の研修生とは一味違う印象を受けました。全員の自己紹介のあと、看護科長が作成した「当院の概要、リハビリテーション看護について」をあらかじめ英語に翻訳していただき、当日はスライドを用い食い入るようにうなずいていました。また、昨年度から取り入れた理学療法士による実技指導「基本動作における介助方法」は今年も好評で写真やビデオに収め、自国での学習に役立てようとする姿勢が見られました。午後からの施設見学では看護記録や褥創対策などの様々な質問があり、見学後には看護師の採用など管理者ならではの質問があり予定時間をオーバーするほどでした。皆様の学ぼうとする熱心な姿勢を肌で感じ、私達自身もリハビリテーション看護を深める機会となりました。



## 「高校生施設訪問研修」を迎えて

11月の下旬から12月の中旬にかけて、各学校からの依頼を受け沖縄県立球陽高等学校、長崎県立清峰高等学校、大分県立日田高等学校の3校の施設訪問研修を行いました。

今の医療の状況や当院の概要、リハビリテーション看護について講義したあと、車椅子移乗について簡単なデモンストレーションを行い、その後各自片麻痺患者さん、対麻痺患者さんになってもらい車椅子で施設見学を行いました。また道路に段差があった場合どうするかなどを想定し考えてもらいました。1時間半から2時間という短い研修ではありましたが、歩いて見る景色と車いすで見る景色の違い、「手伝ってもらえませんか」と言い出せないもどかしさを感じ、そして何より健康である大切さと困っている人に気づき手を差し伸べてあげようという気持ちが生まれたのではないのでしょうか。今回の体験が障害を持った方への理解と相手を思いやる心が深められたことを願っています。



## 東京都リハビリテーション病院実施等の研修会のご案内

### ①平成20年度 看護研修公開講座

日時・場所：平成20年12月12日（金） 14:00～17:00 当院3階大会議室

タイトル：認知症患者の看護ケアを学ぶ

講師：東京都老人医療センター 認定看護師 白鳥絹恵さん

### ②平成20年度リハビリテーションセミナー（医師向け）

日時・場所：平成20年12月16日（金） 19:30～21:30 当院3階大会議室

タイトル：脳卒中による障害はどこまで改善するのか（講義）

講師：東京都リハビリテーション病院 リハビリテーション科 医長 新藤 恵一郎

### ③平成20年度 看護研修公開講座

日時・場所：平成20年12月19日（金） 14:30～17:30 当院3階大会議室

タイトル：脳卒中による摂食嚥下のアセスメントとアプローチ

講師：東名厚木病院 専任看護師 小山珠美さん

### ④平成20年度リハビリテーションセミナー（医師向け）

日時・場所：平成21年1月15日（木） 19:30～21:30 当院3階大会議室

タイトル：関節リウマチの生物学的製剤と病診連携の取り組み（講義）

講師：東京都リハビリテーション病院 整形・リウマチ科 医長 丹野 亮

### ⑤平成20年度 区東部地域リハビリテーション連絡協議会 公開講座

日時・場所：平成21年1月24日（土） 15:00～17:30 曳舟文化センター ホール

タイトル：認知症のチームケア

講師：こだまクリニック 木之下徹 理事長（他に墨田・江東・江戸川区行政代表）

主催：区東部地域リハビリテーション連絡協議会 共催：墨田区

後援：江東区・江戸川区・東京都医師会・すみだ医師会・江東区医師会・江戸川区医師会

### ⑥平成20年度 区東部地域リハビリテーション連絡協議会 実践講座（好評にて締切ました）

日時・場所：平成21年2月21日（土） 10:00～16:15 当院3階大会議室

タイトル：実践講座 摂食・嚥下のリハビリテーション（初級編）

※上記研修会への参加ご希望は、当誌の事務局までお問い合わせ下さい。



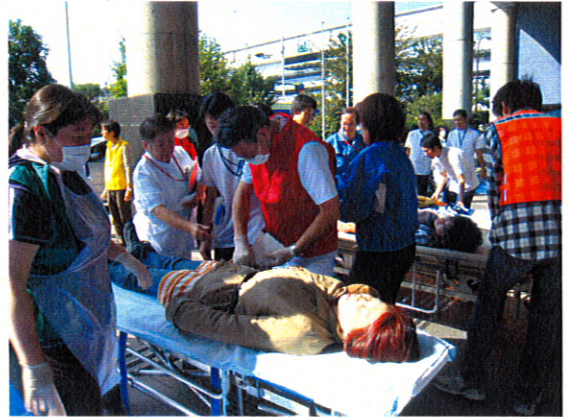
## ある晴れた日に

手術室看護師長 金指 るみ子



平成 20 年 10 月 19 日(日曜日)各部署職員総勢 45 名参加し、白鬚防災団地東地区合同防災訓練が実施されました。ここ 3 年ほど、地域の皆さんに、ムラージュ(怪我のメイク)を体験していただき、1 次救護所でその模擬患者さんが、トリアージされ当院に、担架で搬送され、入り口でさらにトリアージされ、救護活動を行うという救護訓練の形を取りながら行っています。今年も、看護科長及び師長 7 名が、朝 8 時から、日ごろのメイクのワザ(?)を存分に発揮し 20 名の住民の皆さんに、「イタそ〜!」と言われるほどの痛々しい傷を作り上げ、訓練を開始しました。

「意識不明の患者さんですから・・・」と説明を受けた模擬患者さんが、トリアージカードに何も記載されないまま転送されたことになったり、簡易ベッドを設置したら、ストレッチャーが通れなくなったり、処置用の衛生材料が見つからない等「ハプニング〜♪」の連続でしたが、一応予定時間に訓練は終了することが出来ました。反省会でも活発な意見が交わされ、課題はまだまだ山積みですが、参加した皆さんの意見を反映し“イザ”と言う時のために備えて行きたいと思います。(皆さんは、“イザ”というとき大丈夫ですか?)

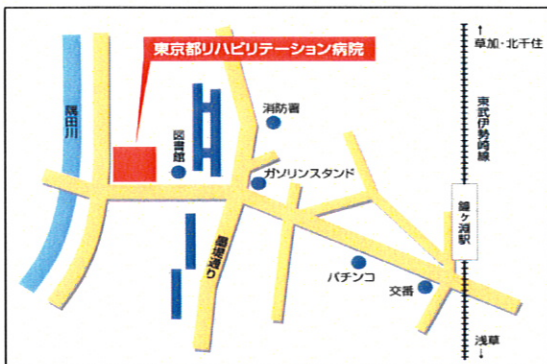


## 赴任医師紹介

医員 伊藤 真梨 (いとう まり) リハビリテーション科

1. 出身大学  
弘前大学医学部医学科
2. 指定医・認定医・資格など  
日本リハビリテーション学会会員
3. プロフィール

平成 20 年 8 月より、当院に勤務させていただいています。青森で大学生活を終え、出身の横浜に戻って研修医を行い、現在はリハビリ科医として働いています。患者さんが一日も早く、毎日を笑顔で過ごせるよう、ご家族、スタッフと協力して、一つ一つ問題を解決するお手伝いをできたらと思います。病院でお会いした時は、お気軽に声をかけてください! 今後とも宜しく願いいたします。



## 東京都リハビリテーション病院 交通案内

- (電車) 東武伊勢崎線 鐘ヶ淵駅 下車徒歩 7 分
- (バス) 両国から都営バス「東京都リハビリテーション病院 (路線番号: 墨 38)」行き (約 30 分) 終点下車
- (お車) 首都高速六号線 堤通ランプ下

本誌に関しますメールでのお問い合わせやご意見は、下記アドレスまでお寄せ下さい。

[renkei-ito@tokyo-reha.jp](mailto:renkei-ito@tokyo-reha.jp)

東京都リハビリテーション病院は東京都の指定管理者制度に基づき (社) 東京都医師会が運営する病院です。